



南アルプス市立 白根飯野小学校 学校だより  
学校教育目標  
「郷土を愛し、たくましく生きぬく子ども」

6月号  
令和3年6月30日  
編集 校長 岡こすえ

**明日から7月 1学期も 残り14日間になりました！**



梅雨明けが待たれる今日この頃ですが、じめっとした気候とは裏腹に、子供たちは、はじめのある生活態度で、元気で爽やかな学校生活を送っています。晴れた日の校長室の窓からは、異年齢の児童がグラウンドいっばいに群れをなして駆け回る姿が見え、校庭の樹木や近くの畑、野山の緑が借景になることで昭和時代にタイムスリップしたように思えるほどです。また、金魚やドジョウを見るために池の周りに集まったり、花壇のマリーゴールドの管理をする委員会のメンバーがとても頑張っている姿が見られます。

さて、昔ながらの雰囲気が漂う本校も、芦安、八田地区の小中学校が既に先行しているように、令和4年度中には、小中一貫校として運営を始めることを目指していることは、以前お知らせしたとおりです。本来であれば、進捗状況を直接お話させていただくべきですが、コロナ禍ですので、現時点での概要についてご報告します。

「学校の看板が変わる」このことは、子どもたちはもちろんのこと、地域の皆様方をはじめ、本校の卒業生など多くの方々にとって、とても大きなことです。しかし、今までの教育活動がガラリと変わってしまうのではなく、9年間という義務教育の期間を一つのスパンとして考え、小中共通の「めざす生徒像・児童像」を制定し、白根巨摩中校区の教育方針及び教育課程を整理することで、効果的で効率的な教育を推進することができるようになります。昨年度は、各校の管理職が中心となってそれぞれの学校の特長や学校経営についての意見交換を行なってきましたが、今年度に入り、白根巨摩中学校区における学校評議員、学校関係者評価委員、PTA役員といった保護者・地域住民及び外部有識者の代表者の皆様方を含めた小中一貫教育推進協議会を開催致しました。

小学校と中学校との「縦のつながり」、小学校間、学校・家庭・地域社会といった「横のつながり」を強化し、充実させていくことが、南アルプス市の未来を創る人づくりの実現につながっていくことを改めて感じました。

今後は、職員や児童生徒の交流、授業規律、学校生活のルール、学校評価項目やタブレット端末の利活用状況について等、検討していくことが予想されます。また、教育課程を整理・統合する際の課題例として、「林間学校」という宿泊学習があります。本校及び東小の5年生で実施している林間学校は、両校とも八ヶ岳少自然の家を利用していますが、巨摩中学校の1年生でも同じ施設で校外学習を行っています。目的こそ異なりますが、検討した方がよい事例だと思っています。さらには小学校で行われている外国語などの教科ごとの系統性を重視した教育課程の編成も必要です。保護者の皆様や地域住民の方々への広報活動をどのように行っていくかも課題の一つではありますが、学校としての役割を果たせるよう一層努力してまいりますので、今後とも保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。





アサガオを観察する1年生

2年生：図工  
くしゃくしゃぎゆ



エコパーク伊奈ヶ湖で環境学習をする4年生



3年生：網倉師範による  
小笠原流礼法の授業



6年生：自分たちのあいさつの  
課題に気づき、目標を決めよう



児童会縦割り活動  
5, 6年生がお手本です!